

文化教育学部学校教育課程 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

【学位授与の方針】

教育目標に照らして（佐賀大学の学士力を踏まえて）、学生が身につけるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、現代社会の諸問題を文化・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術 (ICT) などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 学校教育のしくみ、児童・生徒のこころと発達、障害のある児童等への支援、教科内容、教育方法等について、幅広く体系的に知識と技能を身につけている。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して、いじめ、不登校、理数離れなど、複雑化している現代の学校教育の諸問題について関心・理解を持ち、それらの問題をその社会・歴史的背景や原因、その心理的要因を含めて多面的に考察して、解決に必要な情報を収集し分析することができる。
- (2) 教育実習等による授業・指導の実践経験を経て、学校教育や各教科の教育における課題を発見し、選修の専門分野の基礎的な知識と技法を応用してその課題の解決に取り組むことができる。
- (3) 種々の教育実践経験を通して、学校教育の諸問題の解決のために他の教員と協調して行動し、子どもたちに対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 学校教育を担う社会人としての資質

- (1) 学校教育における様々な問題に積極的に関心を持ち、目標を持って主体的に学習する習慣を身につけている。また、学校教育の諸問題に的確に対応できるように、継続的に自己研鑽に励む意欲と態度を有する。
- (2) 高い倫理観と豊かな人間性を育み、学校教員としての責務を自覚して自己の能力を社会に還元する強い志を有し、社会人としての規範に従って行動できる。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育については、以下の科目を配置する。
 - 基礎的な知識と技能の分野
 - ① 教養教育科目において、言語に関する授業科目（外国語科目）、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学と技術・現代社会に関する授業科目（基本教養科目）を必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。
 - ② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的させられる。
 - 課題発見・解決能力の分野
高等学校と大学の接続を図るため授業科目（大学入門科目 I）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目を選択して学ぶ（基本教養科目、インターフェース科目）。
 - 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）
教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（基本教養科目、インターフェース科目）。
- (3) 教員として必要とされる体系的な知識を修得するための専門教育科目を、以下の「専門基礎科目」「専門科目（課程共通科目、学校教育科目、専門外国語科目、選修科目、自由選択科目、卒業研究）」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。
 - 1) 専門基礎科目
文化と教育の融合を図るとい文化教育学部の理念を実現するための科目であるとともに、専門分野を学修する上で、その基礎になる科目として設置されている。そのため、本学部全員にとって必修および選択必修の科目としている。
 - 2) 専門科目
課程共通科目、学校教育科目、専門外国語科目、選修科目、自由選択科目及び卒業研究から構成されている。
 - ◇課程共通科目 各課程の趣旨・特色を活かすため、所属する課程の学生が専門の素養として共通にもっておくべき学力を育てるための科目として設置されている。そのため、各課程に履修すべき科目が定められていて、所属する課程の学生全員が履修する。
 - ◇学校教育科目 学校教育課程の学生が、必修として履修しなければならない科目として設置している。各課程の目的に合った教育的素養を育てる。
 - ◇専門外国語科目 全課程の学生にとって必修の科目で、外国語の運用能力を育

てる。

- ◇選修科目 各選修の特色を表す科目であり、その選修分野の主体をなす科目として設定している。必修科目と選択科目からなっており、選択科目は、めざす能力を高めるために各自で計画的に選択する。
- ◇自由選択科目 全学部の専門教育科目の中から各自の興味にしたがって選択できる科目として設定している。そのため、この自由選択科目に配当された単位数は、教員免許伏取得のための科目を履修する際に利用する。
- ◇卒業研究 4年間にわたる学修の集大成にあたるもので、4年次の1年間を通して研究するために設定している。この卒業研究は、履修条件が課せられており、この条件を満たした者は、所定の手続きにより、3年次の後半にテーマと指導教員を決め、このテーマに基づいて計画的に卒業研究(論文、制作、演奏など)を進める。

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義、実験・実技・実習およびフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 学生の自主的な学習と問題解決法の習得を目指して、ディスカッションやプレゼンテーションなど取り入れた授業を積極的に行う。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員(チューター)を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。
- (4) 初年次より学校体験を取り入れ、体系的に指導する科目(教育実践フィールド演習ⅠⅡⅢ)を導入し、教員としての資質向上を促進する。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目について、その内容、到達目標、成績の評価方法と基準をシラバス等で公開して学生に周知した上で、「成績判定に関する規定」に基づき公正で厳格な成績評価を行う。
- (2) 必修科目である卒業研究については、成績評価の公正性を担保するために主査の他に副査を置く。主査と副査は上記規定に則り合議により厳格な判定を行う。

学士力と科目との対応：学校教育課程

学士力 (大項目)	学士力 (小項目)	授業科目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目 (自然科学と技術の分野, 文化の分野) インターフェース科目
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目 基本教養科目 (現代社会の分野), インターフェース科目
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語 専門外国語科目 情報処理科目 専門基礎科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目 学校教育科目 選修科目選択
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	学校教育科目 選修科目必修 選修科目選択 卒業研究
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目 インターフェース科目 学校教育科目 選修科目必修
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目 (文化の分野, 現代社会の分野) インターフェース科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目 卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	基本教養科目 (現代社会の分野), インターフェース科目 学校教育科目

【入学者受入れの方針】

入学者選抜にあたっては公平性と多様性を理念とし、入学後の学習に必要な基礎学力、及び入学後に学習する専門分野に対する興味と学習意欲を持っているかをみるため、多様な方法による入試を実施し、多彩な人材を求めます。

1. 求める学生像

小学校の全教科に関する学習と、専門分野（教育学，教育心理学，障害児教育，教科教育，理科，数学，音楽のいずれか）の学習に興味と意欲を持つ学生を求めます。

幅広い基礎的学力や技能を備え、学校教育の諸問題や各教科の教育について熱意を持って学ぶことにより、小学校の教員，さらには中学校・高等学校などの教員を目指す学生を求めます（なお，卒業にあたっては小学校教員一種免許状取得の要件を完全に満たす必要があります）。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、①一般入試(前期日程, 後期日程)，②特別入試（推薦入試（教科教育選修）および AO 入試（音楽選修）），③私費外国人留学生入試，による選抜を行います。
- (2) 一般入試では，大学入試センター試験のほか，個別学力検査（前期日程）もしくは小論文・面接・実技検査のいずれか（後期日程）を課します。特別入試では小論文，面接，及び実技検査を課します。私費外国人留学生入試では日本語（作文）・実技検査のいずれかと面接を課し，日本留学試験及び TOEFL の成績と合わせて入学者を選抜します。
- (3) 大学入試センター試験では，高等学校で履修した教科・科目に関する教科書レベルの基礎的な知識を有しているかを評価します。個別学力検査では，国語，数学，英語のいずれかについて幅広く基礎的な知識を有しているかを評価します。小論文では，幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち，自分の考えを日本語で他者からも分かり易く文章表現ができるかを評価します。面接では，相手の意見を理解し自分の考えを相手に正しく伝えることができるかどうかを評価します。実技検査では，当該分野における基礎的な技量が身についているかどうかを評価します。

3. 高等学校段階で修得すべき内容・水準

高等学校で履修するすべての教科・科目について，基礎的な知識を偏りなく身につけており，自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。実技検査を実施している選修においては，当該分野における基礎的な技量を修得しておくことを求めます。

文化教育学部国際文化課程 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

【学位授与の方針】

国際文化課程の教育目標に照らし、以下の具体的学習成果を学位授与の方針とする。成果の達成状況は定期試験等によって判定し、学則に定める所定の単位を修得した者に対して、教授会の議を経て学位を授与する。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然、現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、自立した個人として社会生活を生きるための文化的素養を身につけている。また、現代社会の諸問題について適切な学識を有し、健康・環境に関する知識を自己管理と生活の質の向上に役立てることができる。
- (2) 日本語で、他者の意思を的確に理解できるとともに、自己の意思を口頭および文章で論理的に表現できる。全学教育での英語に加え、専門教育においても英語とその関連科目を履修・修得しコミュニケーションのための英語運用能力を身につけている。また、必修専門外国語として独仏中朝のいずれかを履修・修得し、国際理解に必要な広い視野を有している。
- (3) 情報リテラシーに関する授業科目を履修し基本的な情報技術を修得したうえで、遵守すべき社会倫理に則って収集した多様な情報の適正な処理・管理と活用ができる。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 演習型学習等を通して、各国の文化・歴史・社会等の多様な現実に即した課題を的確に把握できる。また、外国語運用能力を積極的に用いて、関連情報を広く収集・分析できる。
- (2) 日本・アジアや欧米の言語・文化・歴史・社会等の各専門分野における基礎的知識を身につけるとともに、それに基づいて、各専門分野の諸課題を歴史的諸条件にまで遡って考察できる洞察力を有している。また、専門分野の知識と近接分野の知識とを結びつけて問題の解決に向けて応用することができる。
- (3) 演習型学習等を通して、異文化理解に基づく複眼的な視点に立って他者の意見を尊重しつつ、協力して問題の解決を目指す柔軟な姿勢と協調性を身につけている。

3. 地域や国際社会を担う国際的な教養人としての資質

1. 環境やジェンダーをはじめとする現代国際社会に共通の諸課題について正確な知識を修得し、専門教育課程で培われる広い視野のもとで、自然と社会の持続可能な共存、人間の尊厳に基づく人と人の平和な共生等への道を探求し、その実現に向けて積極的に参画する意欲を有している。

2. 欧米や日本・アジアについての専門分野の知識を修得し、市民社会の一員としての自覚と責任を持って自律的に行動する能力を有している。また、その専門的知識を積極的に活かして、種々の分野における国際的・地域交流の促進や地域社会の文化的向上・活性化に寄与することができる。
3. 卒業研究論文の作成を通じて課題を明確にし、生涯を通しての持続的関心を形成する。

【教育課程編成・実施の方針】

学位授与の方針を具体化するために、以下の方針で教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 学習成果を着実に積み重ねるために、教養教育（全学教育）科目と専門教育科目を学年進行に応じて段階的、体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。
 - (2) 教養教育については、以下の科目を配置する。
 - 基礎的な知識と技能の分野
 - ① 教養教育において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、インターフェース科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報処理科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。
 - ② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
 - 課題発見・解決能力の分野
 - ① 教養教育において、様々な課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。
 - 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）
 - ① 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（基本教養科目、インターフェース科目）。
 - (3) 国際的な教養人として必要とされる体系的な知識を修得するための専門教育科目を、以下の「専門基礎科目」、「課程共通科目」、「専門外国語科目」、「選修科目」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。
 - 専門基礎科目
文化教育学部が掲げる総合知の一環として、国際理解と人間理解の基礎的知識を修得するために、課程横断的な授業科目（国際文化論、現代教育論、実践英語等）で構成する。
 - 課程共通科目
社会や文化の多様性を理解し、広い視野と柔軟な感性と思考力を培うための課程必修の基礎的授業科目（日本・アジアの社会と文化、欧米の社会と文化）で構成する。

○ 専門外国語科目

国際文化課程では課程の目標に照らして英語以外の第 2 外国語の履修を重視している。従って、コミュニケーション能力を継続して向上させるための英語、英語を始め多様な言語による専門教育外国語の他に、国際的な視野を形成するとともに各専門分野での研究を深めるための重要な言語として、日本と深い文化的交流の歴史を持つドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語を開設し、これら 4 言語のいずれかを少なくとも 8 単位履修する。

○ 選修科目

専門分野における体系的知識の修得を目標とする授業科目群で構成し、学習成果を確実に上げるために、各授業科目を段階的に配置する。

1) 日本・アジア文化選修においては、各授業科目を導入科目、発展的科目、応用的科目の 3 段階に分けて配置し、さらに、多角的な視点を培うため隣接分野として A、B 両群の授業科目を配置する。

欧米文化選修においては、専門分野を「欧米の歴史・社会・思想」領域、「欧米の文学」領域、「欧米の言語と文化」領域の 3 領域で編成し、各領域の授業科目を日本・アジア文化選修と同様に段階的に配置する。

2) これらの授業科目においては、①専門知識の確実な修得、②積極的な関心と学習意欲の育成、③発表等を通しての論理的思考と自己表現力の向上、④問題を発見し、相互の立場を尊重しながら問題解決に向けて協力し合う姿勢の育成の 4 点を主要な教育目標とし、その具現化のために少人数による講義・演習方式を軸に実施する。

2. 教育の実施体制

- (1) 各授業科目については、それを担当するにふさわしい専門性を有する教員を配置し、オムニバス方式の授業においては授業内容の整合性、一貫性を統括するための責任者を置く。
- (2) 授業科目間の連関性や段階性、専門分野間の授業科目数の適切なバランスを確保するため、定期的な点検を実施して適切な教育体制を整える。

3. 教育・指導の方法

- (1) 専門知識を修得するための講義、問題発見と解決を目指す演習、語学力の向上をはかる各種の講読、コミュニケーション能力を高めるための外国人教員による実践的な授業科目などを組み合わせて、学習成果を高める。
- (2) 内規により履修できる単位数に上限を設けて自学自習時間を確保することで、学習の質の向上および持続的な自己学習の習慣の定着を図る。
- (3) 各年次に指導教員を配置して一般的な履修指導を行うことに加え、ティーチング・ポートフォリオの導入により、教員によるよりきめ細かな学習支援を行う体制を整える。また、学生が常に自己の学習状況を客観的に把握できるようにラーニング・ポートフォリオを導入・実施する。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目について、その内容、到達目標、成績の評価方法と基準をシラバス等で公開して学生

に周知した上で、「成績判定に関する規定」に基づき公正で厳格な成績評価を行う。

- (2) 必修科目である卒業研究については、成績評価の公正性を担保するために主査の他に副査を置く。
主査と副査は上記規定に則り合議により厳格な判定を行う。

学士力と科目との対応表（日本・アジア文化選修）

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野，文化の分野）
		インターフェース科目
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分野）
		インターフェース科目
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語
		専門外国語科目
		情報処理科目
		専門基礎科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目
		選修科目 必修 A
		選修科目 選択
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	選修科目 必修 B
		選修科目 選択
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目
		インターフェース科目
		選修科目 必修 B
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目（文化の分野，現代社会の分野）
		インターフェース科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目
		卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	基本教養科目（現代社会の分野）
		インターフェース科目

学士力と科目との対応表（欧米文化選修）

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目	
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野，文化の分野）	
		インターフェース科目	
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目	
		基本教養科目（現代社会の分野），インターフェース科目	
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語	
		専門外国語科目	
		情報処理科目	
		専門基礎科目	
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目	
		選修科目 必修	
	2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
		(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	選修科目 選択
(3) 課題解決につながる協調性と指導力		大学入門科目	
		インターフェース科目	
		選修科目 選択	
3 個人と社会の持続的発展を支える力		(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目（文化の分野，現代社会の分野）
	インターフェース科目		
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目	
		卒業研究	
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	選修科目 選択	
		基本教養科目（現代社会の分野），インターフェース科目	

Ⅲ 入学者受け入れの方針

国際的な広い視野を持った、自立し社会に貢献できる人材を確保・育成するために入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

国際文化課程の教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求めます。

- (1) 国際的な広い視野からものごとを考え、学び、それを将来自分や社会のため活かそうという志を持つ人
- (2) 外国語を含む言語運用能力およびそれを活用したコミュニケーション能力の修得に意欲を持つ人
- (3) 日本やアジア、欧米の言語・文化・歴史・社会等について学び、海外の大学への留学、公務員・旅客業・情報通信業・金融保険業など国際的な視野を必要とする業種への就職、中学校・高等学校の国語科・社会科・英語科の教員を志望する人

2. 入学者選抜の基本方針

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

- (1) 求める学生像に沿った意欲と能力を備えた人材を得るために、複数の選抜方法を実施する。

①一般入試（前期日程・後期日程）、②推薦入試、③私費外国人留学生特別入試、④三年次編入学入試による選抜を行います。

- (2) 本課程の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行う。

①大学入試センター試験に加えて、一般入試（前期日程）では、本学で学習する諸科目を理解できる基礎的学力が備わっているかを問うための個別学力検査を行い、一般入試（後期日程）では、文化や社会への理解力・論理的思考・表現力を問うための小論文試験を行います。

②推薦入試では、学業成績や修学状況、思考力・表現力、勉学意欲、国際社会への問題意識等を総合的に評価するために、書類審査による第一次選考と、面接及び小論文による第二次選考を行います。

③私費外国人留学生特別入試では、入学後の学習に必要な日本語能力を問い、意欲や適性について判断するために、日本語留学試験及び TOEFL の成績に加えて、面接及び日本語試験（作文）を行います。

④三年次編入学入試は、入学後専門分野の研究に取り組むのに必要な能力を問うために、書類審査と小論文試験および外国語試験（英語）を行います。

3. 高等学校段階で習得すべき内容・水準

国際文化課程における 4 年一貫の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修するすべての教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力と応用力のある幅広い知識を有していることが求められます。

文化教育学部人間環境課程 生活・環境・技術選修の学位授与の方針 及び教育課程編成・実施の方針

【学位授与の方針】

人間環境課程の教育目標に照らし、以下の具体的学習成果を学位授与の方針とする。成果の達成状況は定期試験等によって判定し、学則に定める所定の単位を修得した者に対して、教授会の議を経て学位を授与する。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 生活や人間をとりまく環境を理解するための文化、社会あるいは自然に関する基礎的な知識を修得している。
- (2) 生活環境、地域社会および環境問題に関する専門的な知識を修得している。
- (3) 言語・情報・科学リテラシーを修得し、多様な情報を収集・分析・整理して適切に判断し、活用することができる。
- (4) 実験・実習やフィールドワークを通して、生活環境、地域社会および環境問題を考えるための技法を修得している。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 生活環境や地域社会および環境問題に関する現代的な課題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的かつ多面的な思考に基づいて問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 教育、行政あるいは企業など身近な地域社会あるいは世界が抱える課題について、専門的な知識と技法を用いてその解決に取り組むことができる。
- (3) 実験・実習やフィールドワークを通して、課題解決のための協調性を培うとともに解決のための方向性を提案することができる。

3. 地域を担う社会人としての資質

- (1) 多様な文化や価値観を理解し、生活環境の改善、地域社会の創造、あるいは環境の保全といった行動を、社会的規範を守りつつ他者と協調して行うことができる。
- (2) 社会的役割を自覚し自己を活かすという視点を持って、継続的、自主的かつ自律的に学習ができる。
- (3) 生活環境の改善、地域社会の創造、あるいは環境の保全のための高い倫理観を持ち、卒業後も地域社会等が行う活動に参画していく重要性を理解し、その姿勢を持っている。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 学習成果を着実に積み重ねるために、教養教育科目と専門教育科目を学年進行に応じて段階的、体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育科目については、以下の科目を配置する。
 - 基礎的な知識と技能の分野
 - (ア) 教養教育科目において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報処理科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。
 - (イ) 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
 - 課題発見・解決能力の分野
 - (ア) 高等学校と大学の接続を図るため授業科目（大学入門科目Ⅰ）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目を選択して学ぶ（基本教養科目、インターフェース科目）。
 - 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）
 - (ア) 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（基本教養科目、インターフェース科目）。
- (3) 学士（人間環境）として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目を、「専門基礎科目」、「課程共通科目」、「専門外国語科目」、「選修科目」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。
 - 専門基礎科目
 - 文化教育学部が掲げる総合知の一環として、国際理解と人間理解の基礎的知識を修得するために、課程横断的な授業科目（国際文化論、現代教育論、実践英語等）で構成する。
 - 課程共通科目
 - 現代の生活・環境問題をみつめ直す高度な知識や理論、技術を修得し、教育、行政、企業など、実社会において幅広く貢献できる人材としての専門的能力を育成するため、課程必修の基礎的授業科目（生活経営論、自然環境論、健康福祉論）で構成する。
 - 専門外国語科目
 - 人間環境課程生活・環境・技術選修では、各専門分野での研究を深めるためおよびコミュニケーション能力を向上させるため、専門教育外国語計4単位を履修させる。
 - 選修科目
 - 専門分野における体系的知識の修得を目標とする授業科目群で構成し、学習成果を確実に上げるために、各授業科目を段階的に配置する。
 - (1) 専門領域における知識に加え、幅広い教養にもとづく多角的・独創的な視点から内在する生活文化や環境問題の課題を発見し、問題解決に多角的に取り組むための方

策や方針を考えうる能力を育成するための科目として、選修科目群に、理論や方法論を中心とした「A群（地域・生活文化分野）、B群（環境・技術分野）必修科目」を配置する。

- (2) 新しい生活環境を創造し、主体的に地域・社会に貢献する能力を培うため、プレゼンテーションや情報処理能力を修得し、実験・調査結果を適切に評価し、その解決策を社会発信できる能力を育成するための科目として、演習や実験・実習を中心とした「A群（地域・生活文化分野）、B群（環境・技術分野）関連科目」を配置する。
- (3) 4年間の集大成として、学生の興味・関心に応じた学術テーマを自主的に発展させていくために、「卒業研究」を配置する。「卒業研究」においては、学生各自で課題を設定して最終学年の1年間をかけて調査・研究し、その課題について掘り下げ、卒業論文にまとめる。

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習およびフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせる学習成果を高める。
- (2) 学生の自主的な学習と問題解決法の獲得などの効果を狙って、課題について学生自ら調べ、発表やディスカッションなどを行う授業を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 成績の評価基準や結果に関して、試験実施後に学生がその根拠を問い合わせる期間を設定する。
- (3) GPA制度を導入するなど、学生に対して公平かつ客観的な成績の評価と開示ができるよう努める。
- (4) 3年次前学期までの取得単位数を基準に、各学生の学修到達度を評価し、卒業研究への着手認定のための判定を行う。さらに、学則に規定した所定の単位を修得した者に対し、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

学士力と科目との対応：人間課程 生活・環境・技術選修

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野，文化の分野）
		インターフェース科目
		選修科目 選択
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分野），インターフェース科目
		選修科目 選択
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語
		専門基礎科目
		専門外国語科目
		卒業研究
		情報処理科目（教養） 情報処理科目（専門）
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	専門基礎科目
		課程共通科目
		選修科目 必修 A・B 群
		選修科目 選択
	2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力
インターフェース科目		
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	選修科目 選択
		卒業研究
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	選修科目 選択
		卒業研究
		主題科目
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目（文化の分野，現代社会の分野），インターフェース科目
		課程共通科目
		選修科目 必修 A・B 群
		自由選択科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	大学入門科目
		基本教養科目（現代社会の分野），インターフェース科目
		自由選択科目
		卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	大学入門科目
		基本教養科目（現代社会の分野），インターフェース科目
		自由選択科目

【入学者受入の方針】

地域、生活、文化あるいは環境という多様な視点をもって、将来の日本と地域社会の発展に貢献することができる人材を確保・育成するため、公平性・多様性および価値尺度の多面性を旨とした多様な選抜方式によって入学後の教育に必要な学力と意欲とを多面的に判断し、入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求める。

- (1) 幅広い教養と基礎学力を有し、自然環境、地域社会、人間の文化に強い関心を持っている人。
- (2) (1)に示す領域に関する高度な知識と先見性、実践力を身につけていく意欲のある人。

2. 入学者選抜の基本方針

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行う。

- (1) 求める学生像に沿った意欲と能力を備えた人材を得るために、複数の選抜方法を実施する。
 - ①一般入試（前期日程・後期日程）、②推薦入試、③私費外国人留学生特別入試、④三年次編入学入試による選抜を行う。
- (2) 本選修の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行う。

① 一般入試（前期日程，後期日程）

大学入試センター試験に加えて、一般入試（前期日程）では、本学で学習する諸科目を理解できる基礎的学力が備わっているかを問うための個別学力検査を行う。一般入試（後期日程）では、理解力・論理的思考・表現力を問うための小論文試験を行う。

② 推薦入試

学業成績や修学状況、思考力・表現力、勉学意欲、社会と環境問題への意識等を総合的に評

価するため、書類審査による第一次選考と、面接及び小論文による第二次選考を行う。

③ 3年次編入学入試

入学後専門分野の研究に取り組むのに必要な能力を問うために、推薦では小論文及び面接、一般では外国・小論文及び面接を行う。

④私費外国人留学生特別入試

入学後の学習に必要な日本語能力を問い、意欲や適性について判断するため、面接及び日本語（作文）を課す。

日本国籍を有しない者で、国外において学校教育による12年間の課程を修了し、日本留学試験及び TOEFLを受験済みの者を入学要件とする。

3. 高等学校段階で修得すべき内容・水準

本選修における4年一貫の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修したすべての教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有していることが重要である。

文化教育学部人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修の学位授与の方針 及び教育課程編成・実施の方針

【学位授与の方針】

人間環境課程の教育目標に照らし、以下の具体的学習成果を学位授与の方針とする。成果の達成状況は定期試験等によって判定し、学則に定める所定の単位を修得した者に対して、教授会の議を経て学位を授与する。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、現代社会の諸問題を文化・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語などの外国語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術(ICT)などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 実験・実技・実習やフィールドワークを通して、健康福祉、スポーツに関する問題に対し、幅広く体系的に知識と技能を身につけている。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して、現代の福祉やスポーツの諸問題について関心・理解を持ち、それらの問題をその社会・歴史的背景や原因を含めて多面的に考察して、解決に必要な情報を収集し分析することができる。
- (2) 実験・実技・実習やフィールドワークを通して、リーダーシップや協調性を培うとともに課題解決のための企画立案ができる。

3. 地域を担う社会人としての資質

- (1) 健康科学の専門的技能を習得することによって、専門職業人としての高い倫理感、強い責任感、指導力、コミュニケーション力を磨き、探究心を養い、多様な文化と価値観を理解し、これに対応できる力を身につける。
- (2) 社会的役割を自覚し自己を活かすという視点を持って、卒業後も継続的、自主的かつ自律的に活動ができる。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した一貫性のある教育課程を編成する。

(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

○ 基礎的な知識と技能の分野

- ① 教養教育科目において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報処理科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。
- ② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。

○ 課題発見・解決能力の分野

- ① 教養教育において、様々な課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（基本教養科目，インターフェース科目）。

○ 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）

- ① 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（基本教養科目，インターフェース科目）。

(3) 言語・情報・科学リテラシーに関する教育は、教養教育科目として初年次から開設し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門教育科目における応用へと発展的な学習に繋げる。

(4) 学士（健康福祉・スポーツ）として必要な教養，知識，技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目を，以下の「選修科目」，「専門基礎科目」，「課程共通科目・専門外国語科目・情報処理科目」に大別し，1～4年次まで段階的に配置する。

・「選修科目」：基礎から応用までの健康福祉・スポーツ科学の知識と実践力を習得させ、自立した専門職としての能力を身につけさせるための科目を配置する。

・「専門基礎科目」：幅広い教養に裏付けられた視点から、多面的に物事を考える能力を身につけさせるための科目を配置する。

・「課程共通科目・専門外国語科目・情報処理科目」：情報処理、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養い、自主的に活動を計画、実行、総括できる能力を身につけさせるための科目を配置する。

(5) 4年間の集大成として、学生の興味・関心に応じた学術テーマを自主的に発展させていくために、「卒業研究」においては、学生各自で課題を設定して最終学年の1年間をかけて調査・研究し、その課題について掘り下げ、卒業論文にまとめる。

2. 教育の実施体制

(1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。

(2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義、実験・実技・実習およびフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 学生の自主的な学習と問題解決法の習得を目指して、ディスカッションやプレゼンテーションなど取り入れた授業を積極的に行う。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容，到達目標，成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し，それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 成績の評価基準や結果に関して、試験実施後に学生がその根拠を問い合わせる期間を設定する。
- (3) GPA制度を導入するなど、学生に対して公平かつ客観的な成績の評価と開示ができるよう努める。
- (4) 3年次前学期までの取得単位数を基準にし，各学生の学修到達度を評価する。学則に規定した所定の単位を修得した者は卒業研究に着手する。卒業単位数を充足した学生に対しては、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

文化教育学部：人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野，文化の分野）
		インターフェース科目
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分野）， インターフェース科目
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語，初修外国語
		専門外国語科目
		情報処理科目
		専門基礎科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目
		選修科目 必修
選修科目 選択		
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	選修科目 選択必修
		選修科目 選択
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目
		インターフェース科目

		選修科目 選択必修
3 個人と社会 の持続的発展 を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目（文化の分野，現代社会の分野） インターフェース科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目 卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	基本教養科目（現代社会の分野）， インターフェース科目

【入学者受入れの方針】

入学者選抜にあたっては、入学後の学習に必要な基礎学力、及び入学後に学習する専門分野に対する興味と学習意欲を持っているかをみるため、多様な方法による入試を実施し、多彩な人材を求めます。

1.求める学生像

現代社会の具体的な諸問題に取り組むことのできる教養・基礎学力を持ち、体育・スポーツ指導能力を磨く学生や、健康福祉専門職を目指す学生、またそのためのスポーツ実習や健康・福祉実践実習に意欲を持つ学生を求めます。

2.入学者選抜の基本方針

(1) 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、①一般入試（前期日程，後期日程），②推薦入試、③AO入試、④私費外国人留学生入試、⑤3年次編入学入試による選抜を行います。

① 一般入試

大学入試センター試験に加えて、一般入試（前期日程）では、本学で学習する諸科目を理解できる基礎的学力が備わっているかを問うための個別学力検査を行い、一般入試（後期日程）では、健康、福祉、スポーツへの理解力・論理的思考・表現力を問うための小論文試験を行います。

② 推薦入試

スポーツ分野に関する実績及び幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち、スポーツ分野に関する基礎的な知識を有して、その基礎的な技量を問うために、書類審査による第一次選考と、小論文、面接、実技による第二次選考を行います。

③ AO入試

高い学業成績と自己表現力並びに、スポーツに関する基礎的な知識を有して、自分の考えを相手に正しく伝える力を問うために、書類審査による第一次選考と、面接による第二次選考を行います。

④私費外国人留学生特別入試では、入学後の学習に必要な日本語能力を問い、意欲や適性について判断するために、日本語留学試験及び TOEFL の成績に加えて、面接及び日本語試験（作文）を行います。

⑤三年次編入学入試は、入学後専門分野の研究に取り組むのに必要な能力を問うために、書類審査と小論文試験および面接を行います。

3.高等学校段階で修得すべき内容・水準

高等学校で履修するすべての教科・科目について、基礎的な知識を偏りなく身につけており、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できること、また、健康・福祉・スポーツ分野に関する基礎的な知識や技量を修得しておくことが必要です。

文化教育学部美術・工芸課程 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

【学位授与の方針】

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。学習成果の達成状況を、展覧会での発表、地域の一般人や幼小中高との協同アートプロジェクトなどの活動、そして卒業研究（制作・論文）により判定するとともに、学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て学位を授与する。

1. 知識と技能

- (1) 芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、美術・工芸が社会のなかで果たしてきた役割を理解し、美術・工芸分野の専門家として創作活動や教育活動に携わることができる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語・英語・第三の外国語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適性に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 美術・工芸分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、美術・工芸分野の専門家としての業務を遂行する職業人として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。

2. 課題発見・応用能力

- (1) 技法や材料を経験的・科学的に理解し、それらを自己の制作活動へ応用したり、第三者へ伝授したりできるようになる。美術・工芸の制作活動が、現代社会が抱える様々な問題に対するメッセージとなったり、それらに対して解決への道を開いたりする可能性のあることを理解し、そのような作品を実際にプレゼンテーションすることができる。
- (2) 美術・工芸の歴史に対する理解を深め、人類史の中で、人間はなぜ、どのようにして美術の表現を行ってきたかを知ることにより、創作の原動力としてのさまざまな問題意識や想像力を有している。
- (3) 美的対象物の「美」について、言葉にしたり、記述したりできるようになるとともに、自己の作品について論理的に分析することができる。また、美術・工芸を他者とのコミュニケーション・ツールとして活用する意識とその能力を有している。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) コミュニケーション手段の一つとしての美術・工芸の重要性を理解し、美術・工芸に関わる活動を社会活動の一つとして行う意欲や態度を有する。
- (2) 人間の営為のなかで、美術の創作行為のもつ独自性、その価値を理解し、美術に対して素直に感応できる態度を、自己の創作活動、教育活動、その他を通して社会のなかに浸透させることのできる資質を有する。また、美術作品の内容や形式が、それを生み出した社会や文化と強く結びついていることを理解し、美術活動を通して常に社会に対する問題意識をもつ態度を有する。
- (3) 人間には普遍性が存在すると同時に、異なる文化・宗教・人種などによって人間は差異性をも有することと、またそれを認め合うことの重要性を、自己の創作活動や作

品鑑賞によってはもちろん、様々な能動的活動および他者との触れあいの中で知らしめることのできる資質を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

(1) 効果的な学習成果を挙げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

○ 基礎的な知識と技能の分野

① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学と技術・現代社会に関する授業科目（基本教養科目）を必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における発展的な学習へと繋げる。

○ 課題発見・解決能力の分野

高等学校と大学との接続を図るための授業科目（大学入門科目Ⅰ）と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目（基本教養科目、インターフェース科目）を選択して学ぶ。

○ 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（基本教養科目、インターフェース科目）。

(3) 美術・工芸分野で活躍する人材となるために必要な素養、知識、技術を身につけるべく、以下のように分類された専門教育科目を配置する。なお、A-B-Cは、段階的に知識・技術を積み重ねていくために配置されている。

○ 基礎的な知識と技能

① 言語・情報・科学リテラシー

専門外国語科目、情報処理科目、および専門基礎科目を配置して、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。

② 専門分野の基礎的な知識と技能

以下の課程共通科目および選修科目（必修および選択）を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。

A-1 日本画、基礎日本画、西洋画、基礎西洋画、素描Ⅰ、素描Ⅱ、彫刻、基礎彫刻、デザイン、基礎デザイン、図法Ⅰ、窯芸、基礎窯芸、木工工芸、基礎木工工芸、染織工芸、基礎染織工芸、金工工芸、世界の美術、基礎美術理論演習、博物館学Ⅰ&Ⅱ&Ⅲ

○ 課題発見・解決能力

① 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

以下の課程共通科目および選修科目（必修および選択）を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。

A-1 日本画、基礎日本画、西洋画、基礎西洋画、素描 I、素描 II、彫刻、基礎彫刻、デザイン、基礎デザイン、図法 I、窯芸、基礎窯芸、木工工芸、基礎木工工芸、染織工芸、基礎染織工芸、金工工芸、世界の美術、基礎美術理論演習、博物館学 I&II&III

② プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

以下の課程共通科目および選修科目（選択）を配置して、プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力を身につけさせる。

A-2 応用日本画、応用西洋画、応用彫刻、応用美術理論、応用美術理論演習、基礎金工工芸、工芸理論、デザイン理論、応用窯芸、応用木工工芸、応用木工工芸実習、応用染織工芸

A-3 日本画概論、素描 III、彫刻概論、総合美術理論、総合美術理論演習、博物館実習、応用デザイン、総合デザイン、窯芸概論、木工工芸概論、応用染織工 I、染織工芸概論、応用金工工芸 I&II、金工工芸概論、木工工芸総論

③ 課題解決につながる協調性と指導力

以下の専門基礎科目および教育科目を配置して、課題解決につながる協調性と指導力を身につけさせる。

B-2 現代教育論、教育心理学、教育方法概説

○ 個人と社会の持続的発展を支える力

① 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力

以下の選修科目（選択）および卒業研究を配置して、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。

A-4 総合芸術学習（日本画、西洋画、彫塑、美術理論、デザイン、窯芸、木工工芸、染織工芸）日本画特別実習、西洋画特別実習、彫刻特別実習、美術理論特別実習、窯芸特別実習、木工工芸特別実習、染織工芸特別実習、美術工芸学外実践活動、卒業研究

② 高い倫理観と社会的責任感

以下の専門基礎科目および教育科目を配置して、高い倫理観と社会的責任感を身につけさせる。

B-3 社会教育概論 I、国際文化論、生活文化論、人権教育論

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう教員を配置する。
- (2) 必要に応じて TA が授業の補助に入り、より充実した授業の実現を目指す。
- (3) 領域横断的な知識や感性を磨くために、専門を異にする複数の教員が、ひとつの授業を同時に行う科目を編成する。

3. 教育・指導の方法

- (1) 演習・実習による実証的学習や体験学習と講義による知識の獲得とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 少人数の学生ごとに担任を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を実施する。
- (3) ゼミ（専攻）の指導教員が、学習支援および進学・就職支援を実施する。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を実施する。

学士力と科目との対応：美術・工芸課程

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野、文化の分野） インターフェース科目
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目 基本教養科目（現代社会の分野）、インターフェース科目
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語、初修外国語 専門外国語科目 情報処理科目 専門基礎科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目 選修科目 必修 選修科目 選択
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目 課程共通科目 選修科目 必修 選修科目 選択

	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	選修科目 選択
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力 (1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	基本教養科目
		教育科目
インターフェース科目		
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力 (2) 持続的な学習力と社会への参画力	専門基礎科目
		基本教養科目（文化の分野、現代社会の分野）
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力 (3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目
		選修科目 選択
		卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	自由選択科目
		選修科目 選択
		卒業研究
		基本教養科目（現代社会の分野）
		(3) 高い倫理観と社会的責任感
専門基礎科目		

【入学者受け入れの方針】

教育目標を達成するために、公平性・客観性・開放性を旨とした多様な選抜方式によって入学後の教育に必要な学力と意欲とを多面的に判断し、以下の方針の下に入学者を受け入れる。

1. 求める学生像

本美術・工芸課程の教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求める。

日本画、西洋画、彫刻、デザイン、窯芸、木工工芸、染織工芸、金工工芸、美術理論・美術史及び美術教育の各分野に興味と意欲をもっている者。また、基礎的学力や技能を備え、制作・学習に意欲的に取り組み、表現や理論的な思考などの能力を自ら育てようとする熱意を持って学び、優れた教育者や専門家、企業人などを目指す者。

2. 入学者選抜の基本方針

選抜趣旨

高校までに修得すべき知識および美術・工芸の技能を保持し、なおかつ美的感性にすぐれ、意欲があると判断される者を選抜する。

一般入試

入学要件は、出願資格を満たし、大学入試センター試験を受験したうえで、前期日程・後期日程の個別学力検査（実技検査）を出願・受検して合格した者。選抜は、美術・工芸課程が定めた配点により、大学入試センター試験と個別試験を総合的に評価して実施する。大学入試センター試験では、高校までに修得すべき知識や応用力を選抜の基準とする。また個別学力検査（実技検査）では、技能、独創性、将来性、意欲を選抜の基準とする。

推薦入試

入学要件は、出願資格を満たし、高等学校長から責任をもって推薦され、合格した場合は確実に入学できる者。選抜は、書類（調査書および推薦書）による第1次選考を経て、面接および実技検査による第2次選考により行う。評価は、学業成績や修学状況、技能、意欲・将来性、美術・工芸分野における実績、当該分野の成績等をみて総合的に実施する。

私費外国人留学生入試

入学要件は、日本国籍を有しない者で、国外において学校教育による12年の課程を修了し、日本留学試験及びTOEFLを受験済みの者。選抜は、面接及び実技検査による。評価は、日本留学試験及びTOEFLの成績と、面接及び実技検査の成績から総合的に実施する。面接及び実技検査では、知識、技能、独創性、将来性、意欲、応用力、美術・工芸分野における実績を選抜の基準とする。

3 年次編入（一般）

入学要件は、出願資格を満たした者で、書類（調査書および推薦書）、面接および実技試験の結果に優れた者。書類および面接では、学業成績とともに、美術・工芸についての実績や意欲を、また実技検査では、技能、独創性、将来性、意欲、応用力を選抜の基準とする。

3. 高等学校で修得すべき内容・水準

一般入試（センター試験/実技）

高等学校で履修したすべての教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有していること。美術について基礎的な技量を有していること。

推薦入試（書類審査/面接・実技）

美術・工芸分野に優れた実績を有していること。美術・工芸に関する基礎的な知識を有して、相手の意見を理解し、自分の考えを相手に正しく伝えることができること。美術・工芸について基礎的な技量を有していること。